

図1 ガラス屑の選別作業

印象に残っています。

さて、この工場では、事業拡大に伴う人員増の後、労働災害や事故が多発したことが職場の問題としてとらえられていました。工場内を見てみると、注意喚起の看板や安全啓発のポスターなど、さまざまな場所に掲示がされており(図2)、労働者の安全意識を高める工夫が感じられました。

参加型職場環境改善プログラムの導入にあたり、私たちは、まず職場を数回訪問し、現場の安全衛生担当者や外国人労働者の方にインタビューを行いました(図3)。そして、彼ら自身が感じている職場の実態や課題などのニーズを把握するとともに、現場ですでに取り組みされている良好実践事例(グッドプラクティス)を収集しました。これらのインタビュ

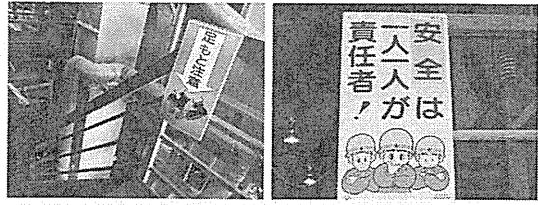


図2 工場内の注意喚起や安全啓発の掲示

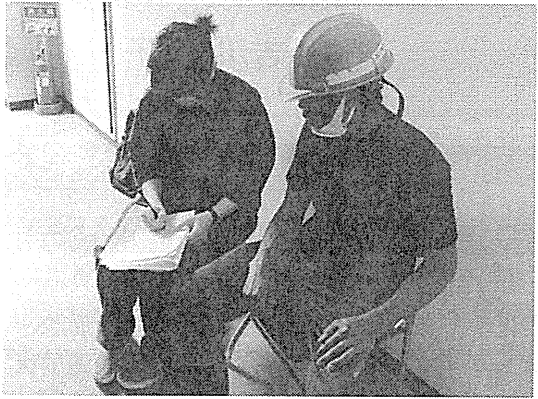


図3 外国人労働者へのインタビュー

ー結果や職場訪問による良好事例収集に基づき、外国人労働者のための参加型職場環境改善プログラムを立案しました(図4)。

本プログラムは、小規模事業場や家内工業で広く取り入れられている、参加型対策志向トレーニング(Participatory Action-Oriented Training, PAOT)の方法論に基づいています。プログラム開発にあたっては、現場の安全衛生担当者と参加型職場環境改善プログラムの実施経験のある外部スタッフとで、プログラムの目

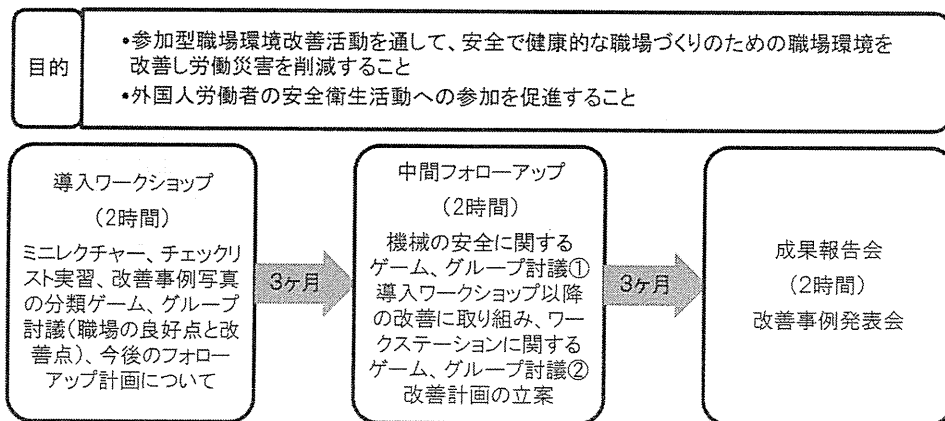


図4 参加型職場環境改善プログラムの概要

さぎょうかいぜん
作業改善アクションチェックリスト

このチェックリストの使い方

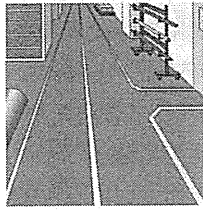
- それぞれの項目を、よく読みます。その項目の提案が当てはまるかどうかを見ます。それができていたり、いらなと思う場合には「この改善を提案しますか」の下の「いいえ」にチェックを付けます。その提案が必要と思う場合は「はい」にチェックをします。メモには JW ガラスのよいところや、改善提案の内容をできるだけ詳しく書いてください。
- ぜんぶの項目をチェックしたら、「はい」にチェックをした項目をもう一度みます。そのうち、特に大切な提案と思うものをいくつか選んで「優先」にチェックを付けます。
- チェックリストにある項目以外でも、よい点、改善提案をみつけたら、書きとめてください。

A. もの運び方と保管のしかた

1. 移動しやすい通路を確保し、はっきりとわかるようにします。

この改善を提案しますか？
 いいえ はい 優先

メモ _____



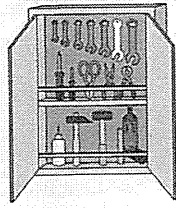
2. 作業場に多段型の収納棚や収納ラックを設けます。

この改善を提案しますか？
 いいえ はい 優先

メモ _____



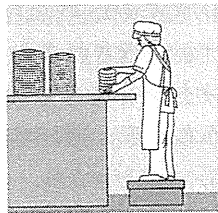
いいえ はい 優先
 メモ _____



トレーナー



ぜん全
します
などし



を備え




図5 アクションチェックリストの例

標、内容、実施方法を検討し、トレーニングキット（アクションチェックリスト、ワークブック）を作成しました。トレーニングキットは、文化背景や言語の異なる多国籍の外国人労働者が安全衛生に関する共通理解を促すための重要なツールとなります。トレーニングキットは、視覚的にわかりやすい写真やイラストを多用し、文章は平易で簡単な日本語表現とし（図5）、さらに日本語の他、英語、フランス語、

ポルトガル語、ネパール語などそれぞれの外国人労働者の母国語に翻訳しました。職場環境改善を取り上げる領域についても、3つの領域「ものの運び方と保管の仕方」・「ワークステーションと機械の安全」・「心と体に気持ちの良い職場環境」とし、通常は30～50項目ほどで構成されるアクションチェックリストの項目数も12項目に厳選するなど、外国人労働者が短時間で効果的に安全衛生に関す

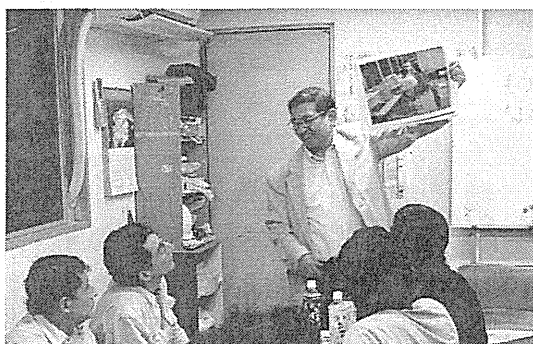


図6 導入ワークショップ：熱心に聞き入る参加者



図7 導入ワークショップ：参加者による良好事例の改善写真選び

る視点を理解しやすいように工夫しました。

参加型職場環境改善プログラムの導入と成果

2011年7月に、ガラスリサイクル工場での参加型職場環境改善活動の導入ワークショップが実施されました(図6, 図7)。初回のワークショップには、25名の外国人労働者のうち、7カ国18名の外国人労働者(ペルー8名, ネパール5名, インドネシア, フィリピン, ナイジェリア, ホンジュラス, ギニア各1名)が参加しました。

参加者たちは、自分たちの働く職場の良好点や改善点をアクションチェックリストや良好事例写真を参考にしながらグループで検討し、改善計画を発表しました。その後、導入

ワークショップに参加した外国人労働者たちにより12件の改善が実施され、改善の領域は、ものの保管と移動、機械安全、ワークステーション、物理的環境、福利厚生など多岐

表 中間フォローアップで出された主な改善事例

【整理整頓に関すること】

- ✓ 道具・機械の整理整頓, 棚や道具箱の整理整頓
- ✓ 散らかっていると思ったところを整理整頓する

【機械の安全に関すること】

- ✓ 開口部へのカバー, 巻き込まれ防止のガード
- ✓ フォークリフトの安全運転

【保護具の使用】

- ✓ 耳栓・手袋の使用
- ✓ ヘルメットの使用

【コミュニケーション促進】

- ✓ 人間関係がよくなった(前は他国籍のチームで言い争いがあつたりした)
- ✓ 危険な場所を皆で確認し, 共有した



図8 改善事例の例：作業用椅子の使用



図9 改善事例の例：道具の整理(ヘルメットをかけるフックの取り付け)



図10 参加型職場環境改善活動に参加した外国人労働者とスタッフ

に及んでいました（具体的な改善事例は表を参照）。

実際に取り組まれた改善事例は、作業用椅子の使用（図8）、道具の整理整頓（図9）、保護具使用、丁寧な清掃、作業者同士のコミュニケーション促進などで、低コストですぐに実行できる改善が多く目立ちました。また、これらの改善活動と同時に、屋外作業場での屋根の設置や作業工程の変更など、大規模な職場環境改善が会社全体の取り組みとして実施されました。これらの参加型職場環境改善活動の結果、プログラム導入前6ヵ月間の災害発生件数4件、延べ休業日数204日に対して、プログラム導入後6ヵ月間の災害発生件数は0件で経過しています。

おわりに

今回のプログラムを通じて、文化背景や言語の異なる外国人労働者が多く在籍する小規

模事業場において、参加型手法を用いた職場環境改善プログラムは、外国人労働者の安全衛生向上に有効な結果をもたらすことが確認されました。

また、労働災害リスクの低減だけでなく、外国人労働者一人一人の安全衛生に関する考え方の変化や安全で健康的な職場環境づくりのための職場風土形成にも寄与していることが示唆されました。

労働安全衛生上、脆弱な労働者集団とらえられていた外国人労働者が9ヵ月という短期間の間に幅広い領域での改善を次々と実行し、職場の安全衛生に寄与したことは、参加型アプローチの持つ可能性を改めて認識する出来事になりました。

本プログラムは、2011年度厚生労働科学研究費補助金「非正規雇用の一典型としての外国人労働者における労災・職業病リスクの解明と参加型手法による予防対策の確立」（研究代表者：毛利一平）の一部として実施されました。

